ユニットプライス型積算方式の概要　①

参考資料１

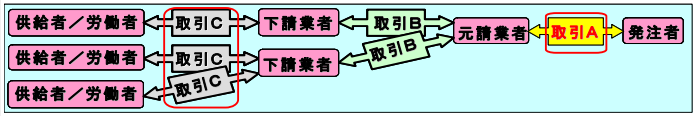
1. 導入の背景

●公共調達の改革：良質な社会資本を適正な価格で整備するために、発注者と受注者がそれぞれの責務を十分に果たすことのできる仕組みを構築しようとするもので、入札契約における技術力競争の推進、監督検査の重点化に併せて積算の市場性・的確性の向上のために導入する。

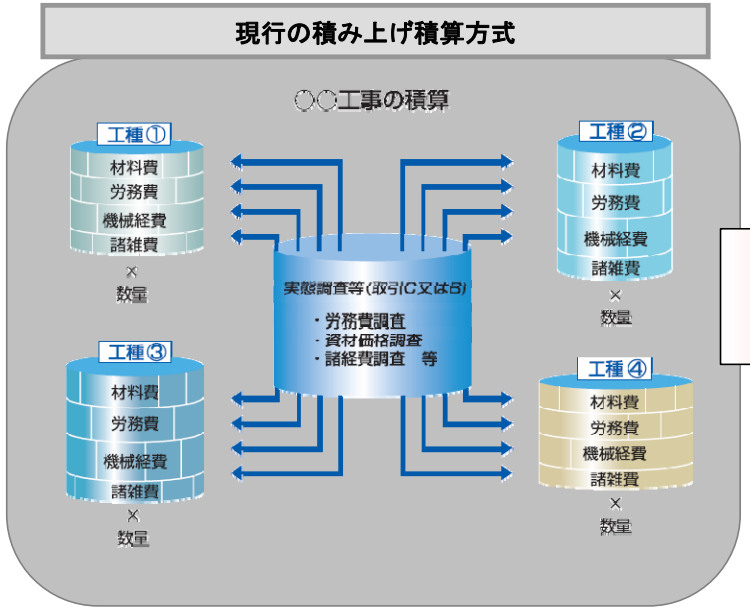
2. 概　　要

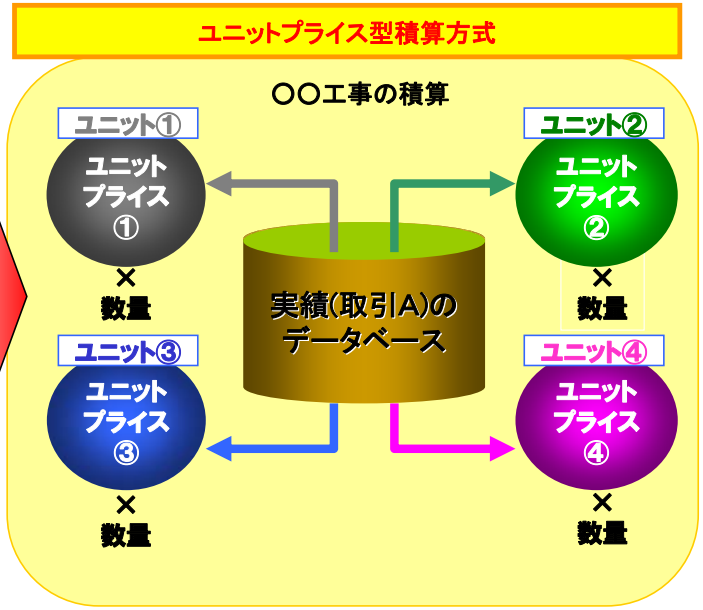
●受注者（元請企業）と発注者がユニット毎に合意した価格を、発注者がデータベース化し、ユニット毎に実績のデータベースを基にした単価（ユニットプライス）を用いて工事予定価格の積算を行う。

●現行の積み上げ積算方式は、資材価格調査のように取引Cを押さえている



●ユニットプライス型積算方式では、契約の当事者である取引Aを押さえる





ユニットプライス型積算方式の概要　②

参考資料２

３．導入の効果

●現行の積み上げ積算方式に対し、ユニットプライス型積算方式は、**５つの効果**が期待できる。

価格の透明性、説明性の向上

発注者と受注者(元請企業)の取引価格をベースに、発注者が直接、施工単価(ユニットプライス)を調査

民間活力（創意工夫）の導入促進

想定した施工のプロセスを示さないため、受注者の技術力の活用や新工法の採用といった創意工夫の意欲が向上

契約上の協議が円滑化

総価契約単価合意をするため、施工量が増減した場合に、自ずと契約変更額が決定されるなど契約変更手続きが円滑

あらかじめ定められているユニットの条件を明示しているため、条件が変わった場合に変更協議が円滑

工事目的物と価格の明確化

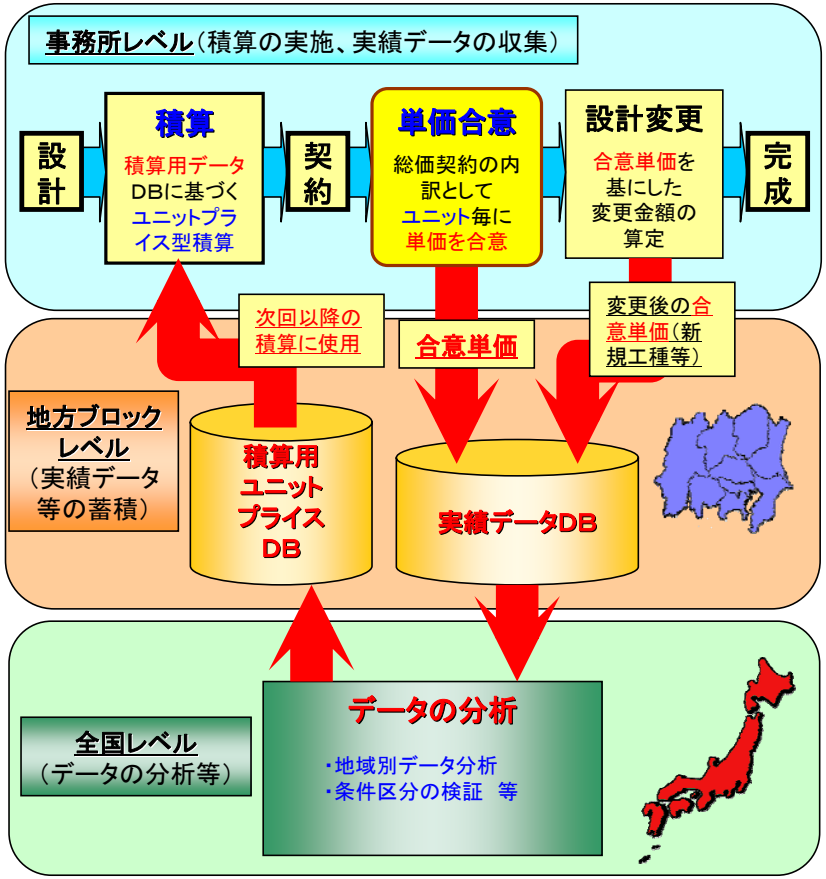
工種毎に直接工事費と間接工事費が一緒になっているため、工事目的物と価格との関係が明確

積算の効率化

多大な労力を要している精緻な積算を効率化

４．手続き等の流れ

●契約後にユニット毎に合意した単価の実績をデータベース化し、地域別プライスの分析、プライス条件の検討等を行い、ユニット毎に次回以降の積算に用いる単価（ユニットプライス）を設定する。

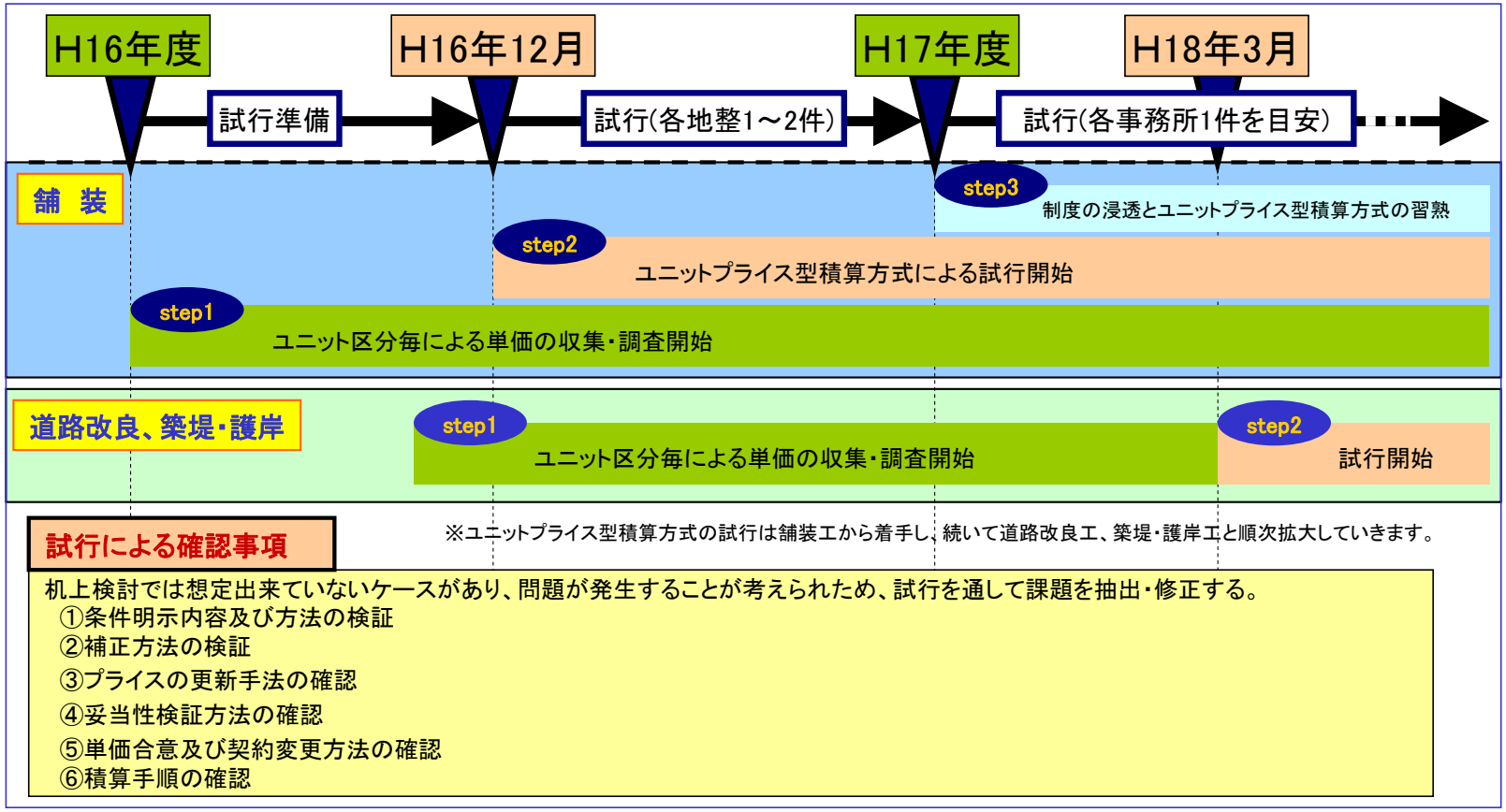


ユニットプライス型積算方式の概要　③

参考資料３

5. スケジュール

●H16年度は、準備の整った舗装工事について、各地整1件を目安に全国で8件について試行を実施した。
●H17年度は、制度の浸透とユニットプライス型積算方式の習熟の観点から、各事務所1件を目安に全国で43件程度について試行実施中。
●道路改良工、築堤・護岸工については、試行に向け解析作業を実施中。
●その他の工事区分についても、試行の状況を踏まえ、慎重にユニットプライス型積算方式への移行を進めていく予定。



試行による確認事項

机上検討では想定出来ていないケースがあり、問題が発生することが考えられため、試行を通して課題を抽出・修正する。

①条件明示内容及び方法の検証
②補正方法の検証
③プライスの更新手法の確認
④妥当性検証方法の確認
⑤単価合意及び契約変更方法の確認
⑥積算手順の確認